

姫路城城下町跡

—姫路城跡第330次発掘調査報告書—



西側 全景(五分の二)

平成26年(2014年)

姫路市教育委員会

1. 調査に至る経緯

姫路市東駅前町97番において、学校法人神戸創造学園による専門学校建築が計画された。今回の開発予定地は周知の埋蔵文化財附蔵地である姫路城城下町跡に位置していることから、平成26年10月30日に確認調査を行った。その結果、江戸時代の遺物包含層を確認し、遺物が出土した。この調査成果をうけ、開発者と保存協議を行い、埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲において本発掘調査を行うこととなった。本発掘調査の対象面積は12.88m²である。

2. 調査地の位置と周辺の環境

姫路城は姫山を中心に築かれ、三重の堀で囲まれている。これらの堀によって内曲輪、中曲輪、外曲輪と区分けがなされ、内曲輪に城の中枢がおかれた。それをかこむ中曲輪には武家屋敷地、外曲輪には町人地や寺社が配され、外堀周辺には下級武士・足軽などの武家屋敷地がつくられた。このような縄張は、姫路城を築城した池田輝政の時代に形成され、以後江戸時代を通じて踏襲された。

今回の調査地である姫路市東駅前町97番は、外曲輪の武家屋敷地に位置する（図1）。町名は「北条口西通」となっており、17世紀頃には存在していたことがわかる。調査地の北側は町屋にあたり、17世紀頃は「泥饅屋町（こてや町）」であった。18世紀前半になると町名が「カメ井町（カメイ丁）」に変更し、18世紀中頃以降は、「東亀井町」とされた。調査地が位置する姫路城南西側の地割は、池田輝政の姫路城築城時に新たに設定された基準軸をもとに作られたと考えられており、南北に延びる堅町のラインを基準にした町割がなされている。

3. 調査の成果

今回の調査では、調査地中央にトレンチを十字に設定した。調査区の東西両端部では近代以降の掘削が認められ、調査区中央部を中心江戸時代の遺構を検出した。遺構検出面の標高は約11mである。基盤層となる10YR5/6黄褐色シルト層上面で、土坑1基（SK01）と柱穴1基（SP01）を確認した。

SK01は、調査区中央に位置し、東西幅約1.0m、深さ約0.5m、調査区内での南北長が約3.6mを測る南北に細長い土坑である。遺構の南端は確認できたが、北側は遺構が調査区外に続いているため全容を確認するには至らなかった。埋土から、瓦や陶磁器などの遺物が多く出土した。

SP01は、SK01の東側に位置し、柱径約30cm、深さ約15cmを測る。柱穴の底で径10cmの平石が出土した。検出状況から柱の礎石であると考えられる。建物を構成する他の柱穴などを確認することはできなかった。

【参考文献】 堀田浩之 1988 「築城プランと基準線」『姫路市史 第十四巻 別編 姫路城』姫路市
八木哲浩 1988 「城下町の概要」『姫路市史 第十四巻 別編 姫路城』姫路市

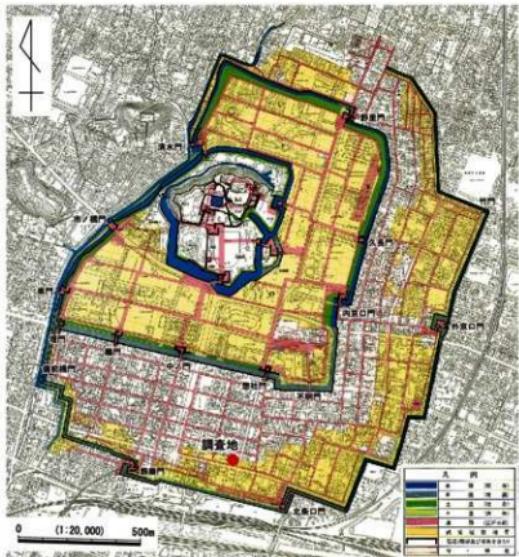


図1 調査位置図



図2 調査区配置図

4. 出土遺物

出土遺物の大半はSK01からの出土であった。

SK01からは棟瓦などを含む平瓦、染付の碗や皿、施釉陶器の片口、丹波焼の甕などが出土した。この他に、土人形や泥面子といった遊び道具や水滴などの文具も出土しており、当時の武家の生活を窺かうことができる。出土遺物の時期は、江戸時代後期の範疇で収まるものである。

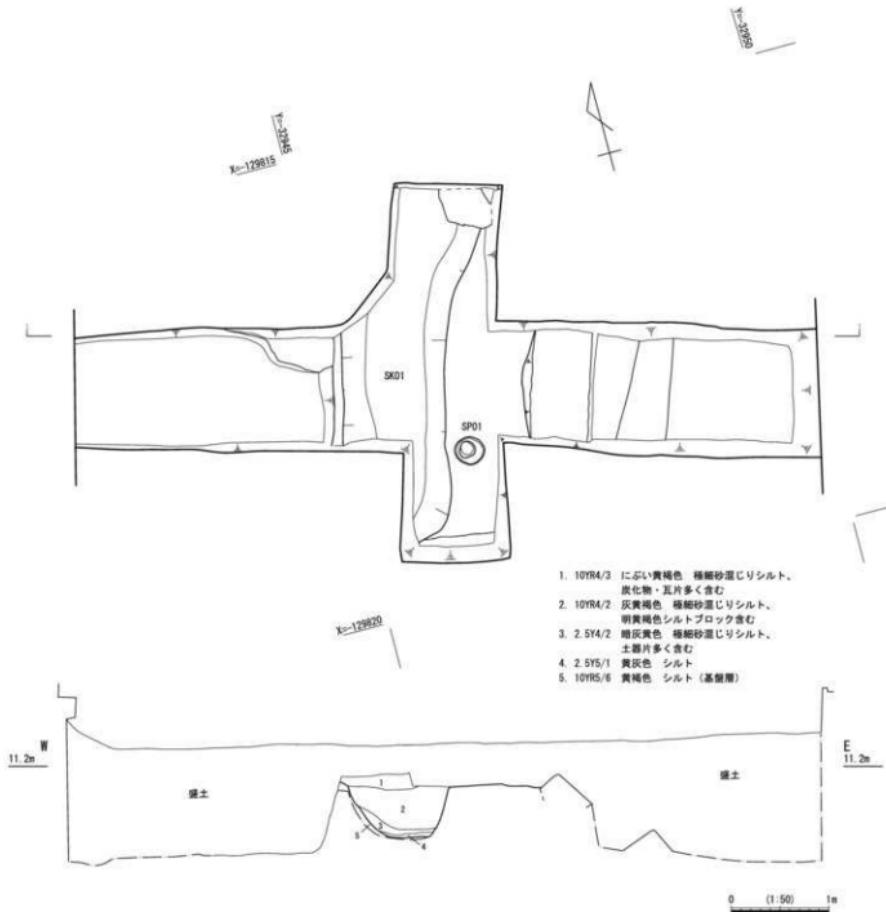
SP01からは、擂鉢や土師皿の破片が出土したが、細片であり時期を特定するには至らなかった。



SK01 出土遺物

5.まとめ

今回の調査では、後世の搅乱が著しく、残存していた遺構面もわずかであり、遺跡の性格を判断するまでの情報を得ることはできなかった。しかしながら、土坑からは遺物が一定量出土し、江戸時代後期の姫路城城下町の様相の一端を示す資料を得ることができた。





SK01 剖面《北から》



SK01 剖面《南東から》



SK01・SP01 剖面《北から》



SP01 (裏から)

報告書抄録

ふりがな	ひめじょうじょうかまちあと					
書名	姫路城城下町跡					
刷書名	姫路城跡第330次発掘調査報告書					
巻次						
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告					
シリーズ番号	第31集					
編著者名	関 桢					
編著機関	姫路市埋蔵文化財センター					
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1 TEL (079) 252-3950					
発行年月日	2015年3月31日					
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積
ひょうごけんひめじし 姫路城城下町跡	市町村 ひょうごけんひめじし 姫路城城下町跡 東駅前町197番	28201 020169	34度 49分 45秒	134度 41分 36秒	2014.12.18 ～ 2014.12.19	12.88m ²
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	遺跡調査番号	
姫路城城下町跡	集落跡	江戸時代	土坑、柱穴	陶磁器・瓦	20140450	

一例 言一

- 本書は、兵庫県姫路市東駅前町97番で実施した姫路城城下町跡（遺跡番号：020169）の発掘調査報告書である。
- 発掘調査は学校法人神戸創造学園からの委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。
- 確認調査（調査番号：20140354）は姫路市埋蔵文化財センター 福井優が、本発掘調査（調査番号：20140450）は関センター 関根、中川猛が担当した。
- 整理作業は、平成26年度に姫路市埋蔵文化財センターにて実施した。
- 発掘調査平面図は世界測地系を使用し、方位はすべて北極北である。また標高は東京湾平均海水準（T.P.）を基準とした。
- 土層名は、「新版標準土色帳」（1999年度版）に準拠した。
- 本書で使用した遺構名は以下のように呼称した。 土坑→SK、柱穴→SP
- 本書の執筆・編集は、関がおこなった。
- 報告書に関する図面・写真・遺物は姫路市埋蔵文化財センターで保管している。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第31集

姫路城城下町跡—姫路城跡第330次発掘調査報告書—

編集	姫路市埋蔵文化財センター
発行	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
発行	姫路市教育委員会
発行日	〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地
印刷・製本	平成27年（2015年）3月31日
	松尾印刷株式会社
	〒671-0222 兵庫県姫路市別所町小林494